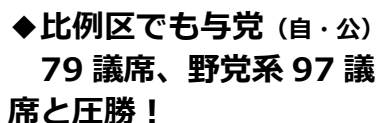


いずれにしても民意は自民党の驕り政治へ鉄槌が
 厳然たる事実であり、経済対策の強化、政治資金改
 革が喫緊の課題であることは間違いありません。



県内でも升田世喜男さん（1区）、岡田華子さん（3区）議席確保！ 東北比例では佐原若子さんも「れいわ新選組」で初議席

27日の衆院選では県内でも立憲民主党候補の善戦がありました。3区では実質的な立憲と共産の共闘が奏功し、岡田華子候補が12,745票の大差で自民候補を制しました。また、1区では升田世喜男候補が小選挙区で5,054票の僅差で自民候補に敗れたものの惜敗率93.37%で比例復活を果たしました。反面、共産候補が18,212票を獲得しており、共闘態勢が確立されていれば圧勝となったことも想定されます。2区では立憲推薦候補の松尾和彦候補も善戦し自民現職に惜敗率

68%と肉薄しました。もし、公認態勢と準備期間があれば違う局面も想定されました。その一方で比例票では前回実績を下回りました。また、東北比例区では「れいわ新選組」も1議席を確保し、佐原若子候補が当選となりました。佐原氏は五所川原市で歯科医院院長の傍ら、2019年の県知事選に野党統一候補として立候補、善戦した経歴があり、今後の活躍が期待されます。一方、21年連続で議席を獲得していた高橋千鶴子候補（共産）は惜敗となりました。

【むつ・下北地域の小選挙区候補別得票数】

自治体		升田世喜男		自民候補		共産党候補	
		得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率
むつ市	今回	9,001	39.25%	11,782	51.38%	2,150	9.38%
	前回	7,711	30.26%	15,630	61.33%	2,144	8.41%
	前々回	8,371	30.39%	16,504	59.91%	2,672	9.70%
大間町	今回	628	34.93%	1,044	58.06%	126	7.01%
	前回	623	30.33%	1,311	63.83%	120	5.84%
	前々回	659	30.78%	1,343	62.73%	139	6.49%
東通村	今回	829	32.68%	1,515	59.72%	193	7.61%
	前回	740	24.89%	2,067	69.53%	166	5.58%
	前々回	774	24.97%	2,141	69.06%	185	5.97%
風間浦村	今回	365	42.20%	440	50.87%	60	6.94%
	前回	394	40.12%	536	54.58%	52	5.30%
	前々回	423	39.17%	603	55.83%	54	5.00%
佐井村	今回	318	37.95%	479	57.16%	41	4.89%
	前回	329	32.70%	622	61.83%	55	5.47%
	前々回	396	34.74%	676	59.30%	68	5.96%
むつ下北計	今回	11,141	38.46%	15,260	52.67%	2,570	8.87%
	前回	9,797	30.14%	20,166	62.05%	2,537	7.81%
	前々回	10,623	30.34%	21,267	60.75%	3,118	8.91%
1区合計	今回	71,211	42.98%	76,265	46.03%	18,212	10.99%
	前回	64,870	37.35%	91,011	52.41%	17,783	10.24%
	前々回	64,173	34.16%	103,177	54.93%	20,497	10.91%

注：前々回の升田世喜男氏は希望の党所属、前回の自民候補は江渡聡徳氏、前々は津島淳氏、共産は前回は斉藤美緒氏、前々は赤平勇人氏

小選挙区の確定得票

1区

得票 76,265 津島 淳 58 自民前
得票 71,211 升田世喜男 67 立憲元
得票 18,212 斎藤 美緒 44 共 新

2区

得票 82,784 神田 潤一 54 自民前
得票 56,674 松尾 和彦 61 無 新
得票 33,569 金浜 亨 36 無 新
得票 9,397 久保 将 70 共 新

3区

得票 86,593 岡田 華子 44 立憲新
得票 73,848 木村 次郎 56 自 前
得票 7,747 長坂 淳也 48 維新新
得票 6,531 其田 寿一 38 無 新



比例復活で当選を果たした升田世喜男さん、一夜明けた28日朝には早速、青森市沖館地区の街頭にて、道行く市民に感謝と国政復帰への決意を伝えました。



堂々、「木村王国」の牙城を切り崩し、小選挙区で見事に初陣を飾った岡田華子さん、升田さん、田名部さんと三人で青森県の未来を変えてくれることを願っています。



東北6県を駆け回り、見事に当選、比例順位3位ながら上位の重複立候補者が法定得票数獲得できなかったため東北初のれいわ新選組の議席にたどり着きました。

国民民主党、大躍進の陰で比例3議席が他党へ
国民民主党は7議席から28議席となりましたが、比例東海ブロックで2議席、北関東ブロックで1議席が名簿登載者がなく、それぞれ自民、公明、立憲に振り分けられるという珍現象となりました。

【むつ・下北地域の比例代表選の政党別得票状況】

自治体	回次	自民党		立憲民主党		公明党		国民民主党		れいわ新選組		共産党		維新の会		参政党		社民党		その他	
		得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率
むつ市	今回	8,455	37.19%	5,492	24.16%	2,204	9.70%	1,957	8.61%	1,499	6.59%	1,426	6.21%	806	3.55%	500	2.20%	393	1.73%		
	前回	12,040	47.80%	5,515	21.89%	2,548	10.12%	578	2.11%	731	2.67%	1,852	7.35%	1,041	4.13%			572	2.27%	312	1.24%
大間町	今回	706	39.80%	365	20.57%	261	14.71%	131	7.38%	130	7.33%	47	2.65%	47	2.65%	40	2.25%	47	2.65%		
	前回	996	49.36%	398	19.72%	309	15.31%	40	1.98%	48	2.38%	90	4.46%	56	2.78%			70	3.47%	11	0.55%
東通村	今回	1,062	42.57%	513	20.56%	318	12.75%	239	9.58%	130	5.21%	89	3.57%	72	2.89%	41	1.64%	31	1.24%		
	前回	1,533	52.73%	529	18.20%	440	15.14%	85	2.92%	71	2.44%	108	3.72%	64	2.20%			44	1.51%	33	1.14%
風間浦村	今回	316	37.57%	236	28.06%	117	13.91%	54	6.42%	39	4.64%	41	4.88%	16	1.90%	13	1.55%	9	1.07%		
	前回	413	43.25%	281	29.42%	143	14.97%	14	1.47%	12	1.26%	47	4.92%	24	2.51%			18	1.88%	3	0.31%
佐井村	今回	324	39.80%	210	25.80%	106	13.02%	42	5.16%	36	4.42%	28	3.44%	24	2.95%	14	1.72%	30	3.69%		
	前回	428	43.85%	244	25.00%	163	16.70%	9	0.92%	27	2.77%	48	4.92%	18	1.84%			31	3.18%	8	0.82%
むつ下北計	今回	10,863	37.91%	6,816	23.79%	3,006	10.49%	2,423	8.46%	1,834	6.40%	1,631	5.69%	965	3.37%	608	2.12%	510	1.78%		
	前回	15,410	48.09%	6,967	21.74%	3,603	11.24%	726	2.27%	889	2.77%	2,145	6.69%	1,203	3.75%			735	2.29%	367	1.15%
青森県合計	今回	175,840	34.05%	128,030	24.79%	46,357	8.98%	53,931	10.44%	36,933	7.15%	34,182	6.62%	19,020	3.68%	13,136	2.54%	9,036	1.75%		
	前回	239,245	43.24%	131,532	23.77%	60,974	11.02%	13,935	2.52%	18,066	3.27%	43,451	7.85%	24,295	4.39%			14,873	2.69%	6,892	1.25%
		前々回	230,610	39.11%	90,558	15.36%	63,550	10.78%				49,018	8.31%	14,747	2.50%			11,755	1.99%	129,356	21.94%

※ 『その他』には前回は「NHK 党」分、前々回は「希望の党」「幸福実現 党」「日本のこころ」を合算した分です。
※ 得票数、得票率が空白の箇所は立候補届がなかったためです。

アジャー やってしまいました おかげで開票立会人も午前5時まで付き合わされました ↓10/29 デーリー東北

衆院選と国民審査
不在者投票94票を
投票箱に入れ忘れ
むつ市選管
27日投開票の参院選・最
高裁判所裁判官国民審査
で、むつ市選管は28日、不
在者投票94票を投票箱に入
れ忘れ、投票自体がなかつ
たことになったと発表し
た。市選管の野坂武史事務
局長は「重大事態を発生さ
せてしまった。無効となつ
た票を投じた方におわび申
し上げる」と謝罪した。
不在者投票は、選挙人名
簿登録地で投票できない人
が、滞在先の選管で投票で
きる制度。回市では計2
0人分を受理した。
市選管によると、26日ま
でに600人分の不在者投
票用紙が届き、投票日の午
前中に処理。投票当日に
届いた94票を処理しようと
したところ、夕方にも再度
届くとの連絡を受け、一括
処理するため一時休管。午
後の時に届いた分を処理し
た際、保管分を失念し投票
箱に入らなかった。
投票総数と得票総数のす
れに気付いたのは午後11時
ごろ。票の精査などを行い、
誤りがなかったため、市選
管事務局などを確認。午前
0時15分ごろ、未投かんの
票が見つかった。
青森県選管に対応を仰
ぎ、「終了時刻の午後8時
までに投かんされなかった
ものは投票自体がなかった
ものとなる」と判断。午前
3時10分に結果が確定し、
投票総数は94票減り、2万
3653票となった。
野坂事務局長は「不在者
投票の担当者が開票担当に
もなっていて作業がギリギ
リだった」と説明。専従職
員の配置やマニュアルの整
備を行い、再発防止を図る
としている。

下北と能登 課題酷似

対策や支援「国主体で」



青森から問う '24衆院選 ⑥半島防災

最大震度7の大きな揺れに押し寄せる津波、燃え広がる火の手、道をふさぐがれきりや土砂。テレビが次々と能登半島の惨状を映し出す。「支援は届いたのだろうか」「どれほどの時間がかかっただろう」。むつ市大畑町赤川の會澤正徳さん(87)の脳裏に自身の避難生活の経験が浮かんだ。

2021年8月10日未明、隣りの住民の「起きて早く逃げて」という声で目が覚めた。大きなごみ袋2枚に衣類と毛布、貴重品をできる限り詰め、妻の志保さん(86)と寝間着姿のまま車に乗り、近くの赤川地区公民館に移った。

下北半島を襲った豪雨で、むつ市と大間町までの海沿いを走る唯一の基幹道路・国道279号の小赤川橋が崩落。橋のすぐそばに住む會澤さんの自宅には避難後、大量の土砂と流木が流れ込んだ。

被災から数日は車中泊で生活。「橋が落ちた影響は大きく、物資はすぐに届かない状況だった。生き延びること以外、何も考えられなかった」

元日に発生した能登半島地震で甚大な被害が生じた奥能登地域(石川県輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)は三方を海が囲み、海と山の間に集落が点在する。海沿いを1周するように走るのは国道249号。輪島市まで高規格幹線道路が整備されている違いはあるが、国道279号と国道338号が生命線となっている下北半島と酷似している。

20年の国勢調査時の奥能

登4市町の人口は計6万1114人。計6万8200人だったむつ下北地域(むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村)と人口規模も似通う。

石川県危機管理室のまとめによると、県内自治体が設置した1次避難所には最大3万4173人が避難、ホテル・旅館など2次避難所には最大5275人が身を寄せた。ただ、他県や親

しきれないため、実際の避難者はさらに多いという。同県危機対策課の中田雄士危機管理監付課長は「道路が通れず、発災初日に職員を(奥能登に)派遣できなかった」と振り返る。ヘリで現地入りした県職員が情報収集に当たったのは、翌2日。被災地は配水管の損壊によりトイレが使えない状況が続いた。「物資が足りず、特に衛生面は課題だらけだった」

4市町の職員も被災する中、対策に当たることができるマンパワーも不足。中田危機管理監は「半島は移動に時間がかかる。大規模災害が起きた時、どう人材を確保するか」と課題を口にする。国は約3カ月間、

的には足りない。救えなかった命がある」と悔しさをにじませた。9月には豪雨に襲われ、終わりの見えない災害対応が今も続く。

車中泊の後、避難所で過ごした會澤さんは21年10月から大畑地区中心部のアパートに住みながら、ボランティアの手も借りて自宅の土砂をかき出す作業を続けた。リフォームした自宅での生活に戻ったのは昨年9月から。會澤さんは「平時から国が市町村に物資を送り、災害への備えを充実させてほしい」と願った。

また、原子力防災の観点から、道路などのハード整備を含めた防災対策を求め、る声も地元では根強い。

※随時掲載します。

より広域な自治体連携を

1月の能登半島地震後、金沢大学(金沢市)の教授らが研究分野の垣根を越えた合同調査チームを設立した。医薬保健研究域保健学系の表志津子教授(公衆衛生看護学)と田中浩二教授(精神看護学)は、平地が狭い半島での避難は被災者の負担増加を伴うため、より広域な自治体連携の枠組みづくりを提言した。

金沢大合同調査チーム 提言

全国の保健師らと連携し、石川県輪島市の仮設住宅を全戸訪問。このうち108軒に暮らす被災者に聞き取り調査ができた。詳しく聞き取るため4〜8月の週末、一軒一軒に繰り返し足を運び、総訪問回数は4千回近くに及んだ。

被災者からは「平地が少ないので安全に逃げられる場所がない」「移動に時間がかかる」「ライフラインの復旧が長期化して生活できない」などの声が多く聞かれたという。

田中教授によると、被災地と

仮設住宅が離れているため、往復の時間や負担が増加。仮設住宅の建設地では、高齢者や1人暮らし世帯を見守る人の確保もできておらず「災害関連死につながるリスクに、どう対応するのかが検討課題だ」と強調した。

隣接する市町村間では災害時の連携協定などが締結されていることもあるが、表教授は、より広域での連携の在り方や支援の受け皿の確保も重要との認識を示す。「奥能登のように地域一帯に災害が及んだ場合を想定し、国主体の対策を検討する必要がある」と述べた。

限られる陸路、点在する集落…

豪雨災害後、ドアなどを新調した會澤さんの自宅。支柱には高さ約50センチまで土砂が流れ込んだ爪痕が残る。11日、むつ市大畑町赤川



最大震度7の大きな揺れに押し寄せる津波、燃え広がる火の手、道をふさぐがれきりや土砂。テレビが次々と能登半島の惨状を映し出す。「支援は届いたのだろうか」「どれほどの時間がかかっただろう」。むつ市大畑町赤川の會澤正徳さん(87)の脳裏に自身の避難生活の経験が浮かんだ。

2021年8月10日未明、隣りの住民の「起きて早く逃げて」という声で目が覚めた。大きなごみ袋2枚に衣類と毛布、貴重品をできる限り詰め、妻の志保さん(86)と寝間着姿のまま車に乗り、近くの赤川地区公民館に移った。

下北半島を襲った豪雨で、むつ市と大間町までの海沿いを走る唯一の基幹道路・国道279号の小赤川橋が崩落。橋のすぐそばに住む會澤さんの自宅には避難後、大量の土砂と流木が流れ込んだ。

被災から数日は車中泊で生活。「橋が落ちた影響は大きく、物資はすぐに届かない状況だった。生き延びること以外、何も考えられなかった」

元日に発生した能登半島地震で甚大な被害が生じた奥能登地域(石川県輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)は三方を海が囲み、海と山の間に集落が点在する。海沿いを1周するように走るのは国道249号。輪島市まで高規格幹線道路が整備されている違いはあるが、国道279号と国道338号が生命線となっている下北半島と酷似している。

20年の国勢調査時の奥能

佐井村で開業、はや5年、これまでの記録がまとめられて出版されました



大竹進医師

村民の健康 欠かせぬ存在

佐井

無医村状態だった佐井村に2019年4月、整形外科診療所「さいクリニック」が開所して5年が過ぎた。これまで長時間かけて村外の医療機関に通っていた村民にとって、欠かせない存在となっている。村民ら延

べ5千人以上を診察してきた大竹進医師(73)は「あと5年は診療所を続けたい」と意気込む。29年までにはオンライン診療の導入を見据えており「無医村などでの地域医療の在り方を模索していきたい」と話している。(川越真也)

さいクリニック 開所5年

さいクリニックな日々

辺境から日本を変える愉快的仲間たち

大竹 進 / 松田 耕一郎



本州最果て下北半島佐井。奇岩屹立の仏ヶ浦、長福寺の円空仏あり。そして整形外科(さいクリニック)は、現代の名所だ。大竹進医師と村びととの交歓を描いた奮闘記は、人間信頼の希望の書だ。

鎌田 慧 (ルポライター)

患者の訴える痛みは、古代からの飢饉や戦争で痛めつけられてきた歴史の再現だ。頑張り、大竹一座、混迷の時代の先を照らす東北の鬼たち。

鎌田 亮二 (精神科医)

「医療は政治」を再認識させ、佐井村を訪れてみたくなる「チーム大竹」の奮闘記です。

本田 宏 (NPO法人医療制度研究会理事長)

定価 2420 円 (税別 2200 円) 送料 100 円 2 割引き優待

地域
PLUS
ふらす

青森市浪岡で整形外科の病院を開業している大竹医師。さいクリニックでは毎月第2週の土曜日の午後と翌日曜日の午前、それぞれ約4時間診察している。看護師2人を含むスタッフ7人とともに村を訪れ、土曜日の診療後は民宿に泊まる。むつ市や大間町からの患者も増え、2日間で100人を超える月もある。

大竹医師ら 活動記録本出版



ていたが、負担は大幅に減ったという。15日の取材に「業の処方だけでなくすぐ対応してもらえるので助かっている。先生にもずっと元気でいてほしいし、診療所が長く続いてほしい」と話した。

20年4月からは事務のオンライン化を導入した。診察した情報を浪岡側がカルテとしてまとめた。大竹医師は8月下旬、スタッフの一人、松田耕一郎さん(74)の来院が多いなど漁村ならではの光景も本には盛り込まれている。「漁では「タイが釣れてい

るらしい」と男性の患者が教えてくれる。男たちはみんな朝早く海に出ているようだ(19年7月14日)。新型コロナウイルスで緊急事態宣言が発令された時期には、民宿に宿泊予定だった客のキャンセルが相次いだ。「男三人でお茶飲みながら。そこへ女将が加わってさらに少し話。コロナによる民宿経営の悩みを話される」(20年5月9日)

5年間の活動をメモし続けた松田さんは「記憶だけではいつか忘れてしまう。活動を記録しなければもったいないと思ったし、気付いたら習慣になっていた」と振り返る。



【写真上】開所5年がたったさいクリニック。待合室は村民同士の会話があふれていた(同下)診療所の活動を記録した本を出版した大竹医師(右)と松田さん

大竹医師によると、佐井村のように医療機関のない地域は全国に約500あるという。「たとえ病院がなくとも、平等に医療を受けられる環境は必要」と強調。出版した本を通じて、「全国の医師に無医村地域での取り組みを知ってもらいたい。佐井での診療をつなぐため、医師仲間の増加や仕組みをつくる責任がある」と語った。

本はあけび書房(東京都)が発行。A5判287ページで2200円(税別)。

「土の人」と「国の人」 とのコラボで 小さくてもきりと光る むらづくり」へ

日本には医療機関のない無医村・無医地区が500以上。

そのひとつの下北半島の無医村にクリニックを開き、毎月2日間、スタッフとともに片道200kmを3時間半かけて通い、診療を行った5年間の記録です。

【推薦：鎌田慧】

本州最果ての下北半島佐井。奇岩屹立の仏ヶ浦、長福寺の円空仏あり。そして「さいクリニック」現代の名所だ。大竹進医師と村びととの交歓を描いた奮闘記は、人間信頼の希望の書だ。

【問い合わせ先】

あけび書房

TEL 03 (5888) 4142

FAX 03 (5888) 4448

来年は戦後・被爆 80 年 「戦争はしない」と誓ったのに…『戦争の準備』ではなく『平和の準備』を

いま、日本は戦後・被爆 80 年を前にして、大きな分かれ道に立っています。

悲惨な戦争・被爆体験の上に打ち立てられた「戦争のない世界」めざす憲法にもとづく生き方が、根底から覆されようとしています。これを許さず、憲法に基づく平和外交の道へ転換するため、行動する時です。

いま、金権腐敗、大軍拡・戦争国家づくりを推し進めてきた自公政権は、行き詰まっています。

空前の大軍拡路線の下で、自民党に巨額に政治献金を行っている軍需産業が莫大な利益を上げています。この軍拡が国民生活予算を圧迫し、増税を押し付けるう根源になっています。「軍拡増税反対」「軍拡やめて暮らしへ、教育へ」の声を広げましょう。

まさに来年は戦後・被爆 80 年です。今こそ声を張り上げて『戦争の準備』ではなく『平和の準備』をと声を上げましょう。



日本の軍拡はアメリカのため

世界1異常な在日米軍基地 世界1づくりの在日米軍基地

▼駐留兵員数も **世界1**

約**5万3973人**(2022年9月)

▼基地・施設の資産評価額も **世界1**

約**20兆6326億円**(2021年9月)

▼日本政府が負担する米軍駐留経費も **世界1**

約**8000億円**

核兵器禁止条約に参加し、核兵器のないアジアと世界を！

日本とアジアの平和のために日本がまず、やるべきことは、何よりも被爆国として、核兵器禁止条約に署名・批准し、中国、北朝鮮、ロシア、アメリカ等にも参加を呼びかけ、アジアを核軍拡競争の地から非核・軍縮の地域へとリードしていくことです。

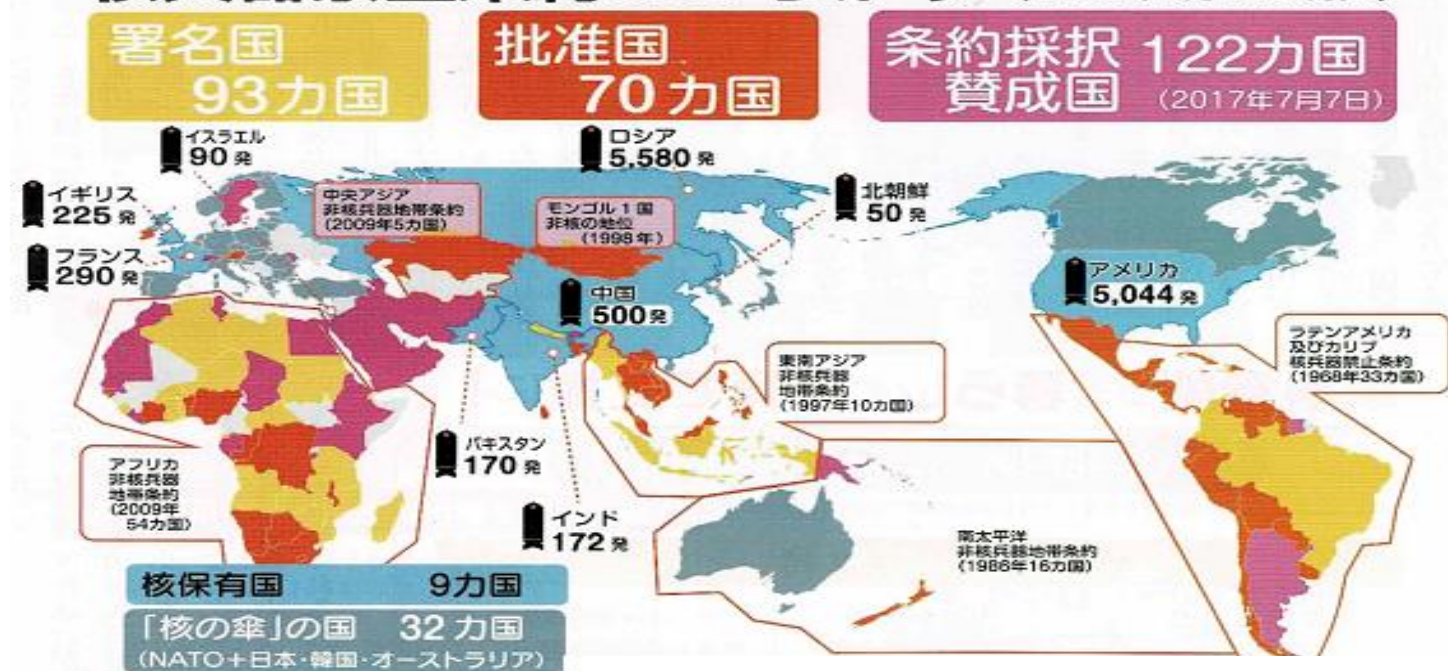
122 カ国の賛成で採択された核兵器禁止条約は、すでに署名国 93 カ国、批准国 70 カ国に拡がり、国際条約として大きな力を発揮しています。

ところか自公政権は、締約国会議にオブザーバー参加さえせず、禁止条約に背を向けたままです。世界唯一の被爆国としてこの条約に参加すべきです。

被爆者の声を原動力として、2017 年 7 月 7 日に

日本被団協が受賞したノーベル平和賞が泣いています

核兵器禁止条約のひろがり (2024年1月15日現在)



少しでも便利に、オンライン診療を年内に導入
むつ総合病院では医師不足や医療設備の問題で対応が困難な患者は年間20名程度が弘前大学附属病院へ紹介され、片道三時間かけて同病院へ通院しているとのこと。
現時点では医師の増員や施設の充実による改善は現実的ではなく、こうした対応で少しでも地域の医療体制が前進することは住民としても喜ばしいことです。

むつ病院で遠隔医療

弘大と連携 内科・外科 年内にも



むつ総合病院でのオンライン診療実施について発表する山本管理者

一部事務組合下北医療センター（管理者・山本知也むつ市長）は11日、弘前大学が医学部付属病院に設置した遠隔医療センターと連携し、同市のむつ総合病院でオンライン診療を実施すると発表した。弘大側と調整を進め、早ければ年内にも内科と外科でオンライン診療を始めた考え。
むつ病院によると、オンライン診療の導入により、住民が弘大病院に通院する回数は半分に減る見込み。弘大病院までは車で片道約3時間かかるため、患者や家族の身体的・精神的・経済的な負担軽減を図れる。

とした。オンライン診療を受ける部屋を現在改修している。

また、同センターと情報や画像を共有することで、集中治療室（ICU）での重症患者の管理、妊産婦の管理、脳神経外科手術などについて弘大医師の助言を受ける「遠隔診療支援」も行う。むつ病院で記者会見した山本管理者は「本年度内（の開始）を目標に取り組む」と述べた。

松浦修院長は「大学の医師から気軽に指導を受けられるので、診療の質向上につながる」と強調。山本管理者は「むつ病院は医師の数が限られている。弘大からサポートいただくことで医師の負担が軽減され、医療の充実が期待できる」と語った。むつ病院は2021～23年度、年平均で延べ1660人の医師派遣を弘大病院から受けている。

（熊谷慎吉）

漫画作家：弘兼憲史氏、失態!!

基地反対活動を揶揄する表現を裏付けなしに引用

10/17 発売 週刊漫画誌「モーニング」より



人気漫画シリーズ「島耕作」が物議を醸しています。雑誌の中で辺野古埋立て工事に触れ、抗議活動を『日当つきのヤラセ』と発言させていました。これに抗議の声が噴出し、同氏と出版社は謝罪、単行本化の際には修正することとしました。

↑10/12 東奥日報

↓10/19 デーリー東北

下北地区統合校巡りむつ市検討委 県への要望5項目決定

地域が望む学科設置など

2027年4月開校予定の青森県立大湊高とむつ工業高による下北地区統合校を巡り、むつ市が設置した検討委員会は18日、市役所で第6回会議を開き、エネルギー関連の研究者育成に寄与する科目の設定や通学支援など、県に対する要望内容をまとめた。11月にも風張知子県教育長に提出する。要望は▽生徒が望み、地域が必要とする学科、多様な教育環境の整備▽生徒が行きたいと思える新校舎▽現校舎の活用▽部活動・体育活動に支障のないグラウンド整備▽その他の5項目にまとめた。具体的には、海洋科学、原子力・自然エネルギーなどの研究者育成に寄与する科目の設定、定時制課程の併設、オンライン履修の導入などを挙げた。現在の部活動の維持、

野球場とグラウンドを併置しない、スクールバスの運行や通学費の支援、寮や下宿の整備検討、進捗状況の情報開示なども求めた。県教委はこれまでに、むつ工業の敷地に新校舎を整備し、学科は総合学科3年級、工業科2年級（機械、電気・エネルギー）とする方針を示している。今後は25年度に設置する開設準備委員会で学校像やカリキュラムなどを具体的に検討。市側からの要望内容を委員会での議論に引き継ぐとしている。

（佐藤航）

【編集後記】衆院選、相手の失策で予想外の野党議席拡大、少しは政治の流れも変わるのだろうか。立憲議席の大幅増にも拘らず、自民比例が533万票減らしているのにわずか7万票の上積みしかなかった。つまり今回の勝利は「自民金権政治批判の受け皿」でしかなかったと思う。それに対し、国民民主358万票、れいわ新選組の160万票の上積みは想定

外の躍進だった。また参政党や保守党という新興右寄政党の台頭も気がかりだ。果たして今後の政局はどう動くのだろうか。東北電力の女川原発が再稼働した、東奥日報のYさんからコメントが求められた。今号の記事でも取り上げたが住民の避難問題などが未着手なのは本県と同じで無念だと述べた。いよいよ次は東通原発か、ますます暗い気持ちになる。（栗）

【天狗の管弦】

ふたまた

むつ市の二又という村の山奥に天狗林とよばれている所がある。ここには“二又天狗”が住んでいたといわれている。

同じむつ市の角違^{すみちがひ}の村から、やはり山奥に入った所に、天狗岩とよばれている大きな岩がある。この岩穴には、“角違天狗”が住んでいたといわれている。また、脇野沢の滝山という村の山奥にクラデエ山とよばれている岩山がある。ここには“クラデエ天狗”が住んでいたといわれている。

下北の天狗は、いたずらが大好きであった。二又天狗は、高い鼻をいっそう高くして、村々の上をびゅうびゅうと風音をたてて飛び回るもので、二ワトリは驚いて卵を産まなくなるし、放し飼いの馬はびっくりしてとんでもない所に走ってゆくもので、村の人たちは困ってしまっていた。

角違天狗は角違天狗で、山で木を切る仕事をしている人があると、そこへザアと物すごい大雨

を降らせ「これア、もう今日は仕事ができねエ」と、帰り支度をはじめるとまたカラリと天気させる。「やア、晴れてきたな、またはじめるか」と、ノコヤマサカリ



を出しはじめると、またまたザアと大雨を降らせるといっただずらをして面白がっていた。

クラデエ天狗は、もっぱら大風をおこし、舟を木の葉のように揺らせては喜んでいる。

それをみた地蔵菩薩は、三人の天狗をよぶと、「人間は人間で一生懸命、働いている。それをいたずらをして喜んでいるとはけしからん。それよりもお前たちにこれを与えるから、合奏しながら霊場

恐山を守れ」と笙^{しょう}、横笛、太鼓をくれた。

天狗たちはくる日もくる日も、宇曽利湖のほとりの大尽山^{おおつくしやま}の上で管弦の合奏をしていた。

ある日、ひとりの男が宇曽利湖の極楽浜の砂をカマスにつめこんでいるのをみつけた。「霊場恐山のものを、商売に持ち出すとはけしからん」と、怒った天狗たちは管弦を奏しながら大風と大雨を降らせた。男は、「仏様が怒っている」とほうほうのていで逃げ帰った。それから、恐山をけがすようなことをすれば、必ず天狗の管弦が聞こえ、大風と大雨が起こるといわれている。



【恐山のおどり鬼】

むがしむがし、恐山に、おっかねえ鬼アいであつたどエ。その鬼ア、毎日、山のけだものば一匹ずんづ、食うんだどエ。ある日、タヌキが食われる番になった。そこでタヌキア、鬼の前さ行くと、「おらば食う前に、おらのおどりっこば見でけさまえ」って、ポンポコリンのポンポンポン、ポンポコリンのポンポンポンって、腹っこ叩きながら、食うやぶアいいべども、食われる身にもなってみろ。ポンポコリンのポンポンポン、ポンポコリンのポンポンポンって、歌いながらおどった

どエ。そのタヌキのおどりア、あんまりおもしろがったもんだが



ら、鬼も「せば、おらもおどってみるべが」って、自分の腹っこベロッとだして、ポンポコリンのポンポンポン、ポンポコリンのポンポンポン、って腹っこ叩きなが

ら、食うやぶアいいべども、食われる身にもなってみろ。ペンペコリンのペンペンペン。ペンペコリンのペンペンペン、って、歌いながらおどっていたら、「なるほど、食われる身になってみれば、大変なごったな。わがったわがった」って、しゃべりながら山奥さ行ってしまったどエ。それがらづもの、恐山の鬼ア、けだものば食わなぐなったというし、今でも、恐山の山奥がらペンペコリンのペンペンペンって、音っこア聞こえてきたら、その時の鬼ア、きっとおどっているんだず、話だ。どっとはれ。